

『正しく恐れるとは？』

～本日の感染者数〇〇〇名という報道への違和感～

昨今ニュース番組では「東京の SARS-CoV-2 感染者数は〇名、大阪は〇名、東京では4月以来、100名を超えた日が連続〇日と過去最高です」のような報道がされています。そして、感染者数を縦軸、月日を横軸として、4月と8月初旬（執筆時）に二つのピークがあるような棒グラフをここ数か月間、多くの日本人がみてきたのではないのでしょうか？

検査数は4月から7月にかけて10倍以上に増えている状況なのに、このグラフでは4月の200名と7月の200名をあたかも同じ検査数で比較しているように見えてしまいます。そして、陽性率に変化はなくても検査数が増えれば感染者数は増えるため、感染拡大しているとは言えない状況であるのに、感染拡大が起こっているという報道がされています。

それらに加え、感染者が増えても多くは軽症や無症状ですが、それらの方々へのインタビューなどはなく、少数の重症化した患者に関する報道が非常に多いと感じています。SARS-CoV-2の危険性を強調することで、予防に対する視聴者の意識を高めるという点もあるのかもしれませんが、感染は拡大しており重症化するものだと、必要以上に恐怖を煽っているように思われます。結果として SARS-CoV-2 感染による体へのダメージよりも、感染したことによる風評被害や、風評被害を恐れることによる個人や社会へのダメージのほうが大きくなっているのではないのでしょうか。

本来であれば、感染者数だけを前面にだすのではなく、陽性率や軽症者、重症者の状況、対応できる病床数なども同様に報道し、SARS-CoV-2の感染状況や対応状況を客観的に伝え、「正しく恐れる」ための情報を提供するのがメディアの役割でしょう。

感染力は強いが毒性は強くなく、重症化の恐れは限定的であるという SARS-CoV-2 の特徴を考えると、ウイルス感染を完全に防ぐことはできないため、重症化する患者を減らし、医療が逼迫しないようにコントロールすることが求められています。

まだまだ SARS-CoV-2 は収束する様子もなく、どのように対応すればよいか世界中で試行錯誤している状況です。本誌では引き続き、冷静に、科学的に SARS-CoV-2 に関する情報を分析し、このウイルスとどのように付き合っていけばよいか、読者が適切に考えられる情報を提供していきます。